

## 「道州制」庁内ワークショップについて

### 1 目的

道州制に関心を持つ職員を対象として、仮に道州制が実現した場合に、県の仕事がどう変わるのか等を検討するワークショップを開催し、職員の理解の向上と道州制の議論の具体化を目指す。

### 2 参加者

- 県職員の中の希望者 45名（職務ではなく、個人としての参加）

本庁	19名	地方機関	26名
事務職	31名	技術職・研究職	14名
男性	38名	女性	7名

- 事務局：総務部総務課 行政評価・分権グループ

### 3 開催状況

	開催日時	内 容
第1回	H17.11.9 18:30～20:45	1 趣旨及び進め方について 2 基調講義「道州制について」 3 検討用メモの作成について
第2回	H18.1.24 18:30～20:45	1 情報提供 ・第28次地方制度調査会 ・県議会の動き ・「分権時代における県の在り方検討委員会フォローアップ会議」 2 グループ別ワークショップ ・オリエンテーション ・ワークショップ
第3回	H18.3.15 18:30～20:45	1 各グループの結果発表及び意見交換 2 ワークショップまとめ及び今後の進め方

### （ご注意）

この内容は、参加者の個人の立場からの自由な議論を、実際の発言に近い形でまとめたものであり、事実関係に若干の相違があったり、愛知県の意見・主張とは異なるものであることをお断りします。

### 4 グループの検討結果概要

テーマ：「道州制の下で県の仕事はどう変わるのか」

グループ1 （環境、産業 労働分野）	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業政策について、国・道州・市町村の役割分担を整理。道州は、地域の特性を活かした大規模・国際的な産業政策を打ち出せる可能性</li> <li>環境分野は、各県の利害が対立する問題が少ないという点もあり、すでに広域連携の取組が進展</li> </ul>
グループ2 （健康福祉、 教育分野）	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康福祉分野について、国は基本部分のルール作りにとどめ、道州で地域の特性、地域の政策に合わせたオプションを設けることなどを検討</li> </ul>
グループ3 （農林水産、 建設分野）	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画の制度・権限における国、地方の役割分担及び道州内分権</li> <li>林野行政における流域管理導入の必要性</li> </ul>
グループ4 （防災、その 他分野）	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来の自治体の枠組みに捉われず、住民視点でサービスの提供主体の役割分担を分類（人生ポータルサイト）</li> <li>道州が制度設計を担うならば、国からの人材の移譲や道州職員の育成が最大のポイント</li> </ul>

### 5 提言「タブーに捉われない道州制論議を」

現在の道州制の議論にはいくつかのタブーが存在する。これらの呪縛から逃れたとき、初めて自由な議論が進み、ホンモノの道州制の姿が見えてくるのではないか。

#### （道州制議論のタブーの例）

- ・枠組み先行の議論はしない
- ・県域は割らない
- ・職員はリストラしない
- ・日本に地域性は薄い
- ・立法権限は分割しない …等々

それは、「東海州～コツコツ協和国～の創造」

そこは、コツコツと正直に働く人々が、いきいきと暮らす「くに」です。東京の価値観ではなく、この地域に根付いた価値観が花開く「くに」です。…

「東海州～コツコツ協和国～」を検討する際の論点をいくつか例示すると、以下のとおり。

- ・東海州の範囲はどこまで？
- ・東海州はどういった「くに」？
- ・東海州の歴史、文化等アイデンティティーや「くに」づくりの基本理念は？
- ・地域課題・行政課題が共通する範囲（エリア）、すなわち解決のための最も適切な範囲は？
- ・住民が主役になった地域づくりのシステムや課題は？
- ・国、道州、市町村、民間（企業、団体、コミュニティ、県民等）など、各主体の役割分担のあり方は？
- ・東海州政府の組織・体制は？ …等々